

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-139	13-078	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Association of alcohol consumption and HIV surrogate markers in participants of the swiss HIV cohort study. スイス HIV コホート研究参加者における飲酒と HIV サロゲートマーカーとの関連の検討		
<b>執筆者</b>		
Conen A, Wang Q, Glass TR, Fux CA, Thurnheer MC, Orasch C, Calmy A, Bernasconi E, Vernazza P, Weber R, Bucher HC, Battegay M, Fehr J.		
<b>掲載誌</b>		
J Acquir Immune Defic Syndr. 2013 Dec 15;64(5):472-8. doi: 10.1097/QAI.0b013e3182a61ea9.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、HIV、virological failure、CD4 陽性細胞数、ART 中断		23892243
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>飲酒は HIV 感染症における抗レトロウイルス治療 (ART) の過程に影響を与える可能性がある。本研究の目的は、治療中または無治療の患者において自己記入式質問票より得られた飲酒情報と HIV サロゲートマーカーとの関連を検討することである。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>スイスの HIV コホート研究における、(1) ART 無治療で開始前の患者および (2) 初回 ART を開始後の患者の 2 集団を対象に、7 年間の前向きを検討を行った。最初の ART を開始した患者集団においては、時間依存 Cox 比例ハザードモデルを用いて、飲酒と virological failure および ART 中断との関連を検討した。上記 2 集団においては、CD4 陽性細胞数の変化についても分析した。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>初回 ART を開始した 2,982 名、ART 無治療で開始前 2,085 名を分析対象とした。ART 開始群では 241 名 (8%) に virological failure を認めたが、飲酒とは関連がなかった。ART の中断は 449 名 (15%) に認めたが、無・軽度飲酒者と比較して、過度飲酒者で有意に多かった (ハザード比 2.24, 95%信頼区間 1.42-3.52)。これらの関連は治療に対するアドヒアランスを調整後も依然有意であった。2 集団とも飲酒と CD4 陽性細胞数との間に有意な関連を認めなかった。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>ART 無治療群、初回 ART 開始群両方において、飲酒と virological failure および CD4 陽性細胞数との間に関連を認めなかった。しかし、過度の飲酒は ART 中断と関連があった。過度飲酒患者においては ART 継続のため特に努力が必要である。</p>		